

2009年10月30日発行

江戸遺跡研究会会報

No. 120

江戸遺跡研究会

<http://www.ao.jpn.org/edo/>

江戸遺跡研究会 第123回例会のご案内

日 時：2009年11月11日（水）19:00～

内 容：土本 匠氏（大成エンジニアリング）

「青山学院構内遺跡第4地点の調査概要－伊予西条藩松平家の上屋敷」

会 場：江戸東京博物館 学習室2

交 通：JR総武線両国駅西口改札 徒歩3分

都営地下鉄大江戸線両国駅（江戸東京博物館前）A4出口 徒歩1分

問合せ：東京大学埋蔵文化財調査室（堀内・成瀬）03-5452-5103

江戸遺跡研究会公式サイト

<http://www.ao.jpn.org/edo/>



◇江戸遺跡研究会第121回特別例会は、2009年7月20日（月）午後1時より江戸東京博物館学習室に◇
◇て行われ、このうち鈴木伸哉氏より以下の内容が報告されました。◇

木製品の用材研究の現時点での到達点

鈴木 伸哉

(千代田区立四番町歴史民俗資料館)

17世紀はじめの江戸城およびその城下町の建設には大量の木材が必要となり、幕府はこれを木曾川・天竜川流域をはじめとした全国の天然林から調達したことが知られている(所, 1980)。こうした都市建設と、それに引き続く都市人口の増加や度重なる火災などにより、近世の森林資源は全国的な枯渇の状況に陥り、木材の生産・流通も全国規模に拡大したことが推定されている。また、幕藩体制を支えた身分制度や階層差が木材利用にどのような影響を与えたかが問題とされる。

一方、木材消費の直接的な証拠である出土木製品については、原(1992)や越村(2003)による分類・集成がなされているが、これらの分類に認められる木製品の種類は多岐にわたり、中世以前と比較すると、この時期に木材利用は多様化を遂げたことがわかる。下駄、桶・樽、漆器や、土蔵・穴蔵などの木製の遺物・遺構については豊富な研究の蓄積があるが、資源利用の観点にたった出土木製品の材質に関する調査・研究は山田(1993)や松葉(1999)など、わずかにとどまる。

こうしたなか、発表では、これまでにおこなってきた研究(鈴木・能城, 2004, 2006, 2008a, b, 2009)を中心に、出土木製品の樹種同定をはじめとした用材分析の方法について概観した。また年輪年代学やそれを応用した産地推定を中心に、最近の新たな研究動向についても紹介した(大山・鈴木¹⁾・八木・鈴木²⁾, 2008; 星野・大山・米延, 2009; 星野・米延・安江・野堀・光谷, 2006)。

1. 江戸の墓地遺跡出土木棺用材から推定する近世の木材利用史(鈴木・能城, 2004, 2006, 2008a, 2009)

東京都内の4つの墓地遺跡から出土した、江戸時代初期から幕末にかけて形成された円形木棺(上面観が円形で、結桶形の構造をなす座棺)と方形木棺(上面観が正方形または長方形で、箱形の構造をなす座棺または寝棺)を主体とする一般都市住民層の木製埋葬施設の構築材およそ2,700点の樹種同定と形態の観察に基づき、近世の江戸における木材利用の変遷と森林資源や身分・階層差との関わりについて検討した。

調査対象と結果

[東京都中央区八丁堀三丁目遺跡II]

日蓮宗朗惺寺の墓域に比定される17世紀前半を主体とする円形木棺・桶製骨蔵器484基と方形木棺41基の部材、1395点の樹種を同定した。円形木棺・桶製骨蔵器にはサワラを中心とした材が用いられていた。方形木棺にはスギやヒノキ、サワラなどの材が用いられており、使用される樹種にばらつきがあることから転用棺である可能性が高い。円形木棺の各部材は時期が下るにつれて薄くなる傾向に

あり、とくにサワラ製とヒノキ製の部材に著しかった。

[文京区護国寺前町遺跡]

日蓮宗妙傳寺の墓域に比定される 17 世紀後半を主体とする円形木棺と方形木棺の部材 164 点の樹種を同定した。円形木棺はヒノキとアスナロが大半を占め、サワラがこれに次いだ。

[東京都新宿区崇源寺・正見寺跡]

17 世紀後半～ 19 世紀前半を主体とする 2 つの寺院跡から出土した円形木棺 257 基と方形木棺 178 基の部材 902 点の樹種を同定した。崇源寺・正見寺の両墓域とも円形木棺ではスギが、方形木棺ではモミ属とアカマツがそれぞれ主体であった。円形木棺の用材は 17 世紀後半～ 18 世纪初頃まではアスナロやヒノキ・サワラが多く用いられていたのに対し、時期が下るにつれてスギやアカマツ、モミ属などに置き換わり、各部材の厚さは時期が下っても横ばいか厚くなる傾向にあった。

[東京都新宿区法光寺跡III]

18 世紀～ 19 世紀を主体とする墓域から出土した円形木棺 31 基と方形木棺 58 基、木槨付き方形木棺 1 基、甕棺 11 基、木槨付き甕棺 11 基の部材 223 点の樹種を同定した。円形木棺ではスギが、方形木棺・木槨ではモミ属とアカマツが、それぞれ主体を占めた。

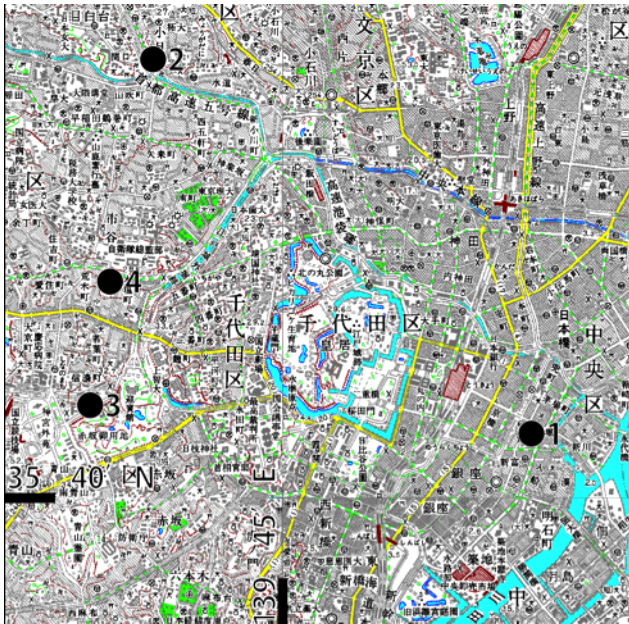


図1. 本発表を対象とした東京都内の近世墓
地遺跡

- 1: 中央区八丁堀三丁目遺跡II
- 2: 文京区護国寺前町遺跡
- 3: 新宿区崇源寺・正見寺跡
- 4: 新宿区法光寺跡III

考察

木棺用材に反映した江戸における木材消費の様相には、江戸時代初期から幕末にかけて変化が認められた。17 世紀前半～ 18 世紀はじめ頃までは、円形木棺の用材は木曾川・天竜川流域をはじめとする天然林からもたらされたサワラやアスナロ、ヒノキなどの移入材を主体とし、都市における木材需要の増大による木材供給源の枯渇を反映して材が軽薄化し、より奥山に生育する樹種が用いられるようになるなど、近世林業史研究で推定されたような木材の大量消費の様相(所, 1980)を裏付けたが、時期が下るにつれて、江戸周辺における植林による木材生産の活発化と、「江戸地廻り経済圏」をはじめ

とする流通網の発達によって、江戸近郊を主産地とするスギやアカマツなどの人工林・二次林産の樹種が主体的に用いられるようになったと推定された(図2)。円形木棺と17世紀前半の方形木棺、18世紀以降を中心とする方形木棺は、それぞれ系譜の異なるものであるが、これら江戸の一般的な都市住民層に用いられた木棺の用材は、将軍家・大名の墓の用材とは、江戸時代を通じて異なっていたことから、当時の身分差・階層差が木棺の用材に反映したと考えた。

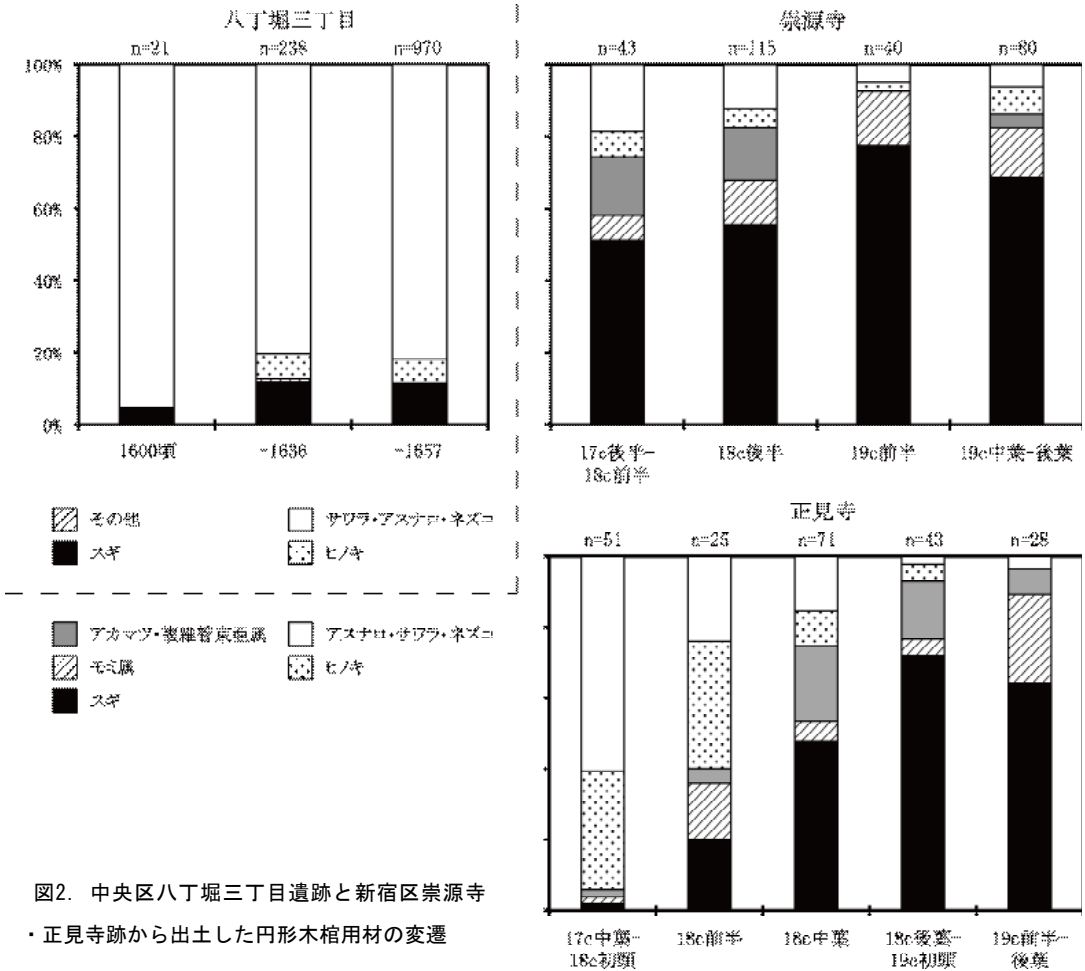


表1. 中央区八丁堀三丁目遺跡Ⅱ出土木棺材の樹種（鈴木・能城2004）

分類群	円形木棺			桶製骨蔵器			方形木棺		
	蓋板	側板	底板	蓋板	側板	底板	蓋板	側板	底板
アカマツ							1	3	1
複維管東亜属	1								
モミ属	2		2				2	9	3
スギ	34	48	54				8	40	17
コウヤマキ		3							
ヒノキ	17	31	35		1	1	2	15	5
サワラ	205	396	364	5	8	7	9	5	4
アスナロ・ネズコ	8	10	18				2	7	6
クリ			1						

表2. 文京区護国寺門前町遺跡出土木棺材の樹種（鈴木・能城2009）

樹種	円形木棺				方形木棺	
	蓋板	側板	底板	底板棒	側板	支え棒
ツガ属				1		
スギ	2	4	4	3	1	1
ヒノキ	2	21	36	7		
サワラ		4	11	2		
アスナロ	5	27	26	7		

表3. 新宿区崇源寺・正見寺跡出土木棺材の樹種（鈴木・能城2006）

分類群	崇源寺								正見寺								
	円形木棺			方形木棺					円形木棺				方形木棺				
	蓋板	側板	底板	蓋板	側板	底板	棧	不明	蓋板	側板	底板	不明	蓋板	側板	底板	棧	不明
アカマツ	1	1	27	5	28	20		4			22			7	3		6
マツ属					6			3	1	1	2		2	4	1		1
モミ属	2	3	41	10	68	52	1	6	4	4	10		1	16	10		9
スギ	40	112	62	18	12	16	5	3	15	44	30	1		3	5	1	2
ヒノキ・サワラ	9	14	7	2	2	4	2	1	8	27	13		1				1
アスナロ・ネズコ	5	10	3	1			2	1	4	16	16						

表4. 新宿区法光寺跡Ⅲ出土木棺材の樹種（鈴木・能城2008）

分類群	円形木棺			方形木棺				甕棺	木槨			
	蓋板	側板	底板	蓋板	側板	底板	棧	蓋板	蓋板	側板	底板	台座
モミ属			9		46	37		5		9	8	
アカマツ				1	12	13	2	3	2	3	2	
複維管東亜属						1						
スギ	3	21	23		5	5	2	4		1		1
ヒノキ・サワラ		1				1						1

2. 江戸の町屋における土木・建築用材の変遷とその背景（鈴木・能城，2008b）

東京都中央区日本橋一丁目遺跡から出土した江戸時代初期から近代に至る遺構構築材の樹種を同定し、江戸の町屋における土木・建築用材の変遷と、そこから類推される木材利用の様相を検討した。土蔵跡17基、穴蔵23基、下水木樋・枝樋86基、井戸5基の部材1934点の樹種同定をおこなった。その用材には江戸時代初期から幕末・近代にかけて変遷が認められ、とくに17世紀中葉～後葉と18世紀中葉～後葉に顕著であった。17世紀中葉以前には、下水木樋・枝樋にサワラを中心とする様々な針葉樹と広葉樹が、また穴蔵には多様な針葉樹が用いられ、多元的で変異に富んだ木材の生産・流通や、都市建設と木材需要の急増による各地からの多様な木材の搬入を反映していた。17世紀中葉以後には、下水木樋・枝樋にはアカマツを主体とする様々な針葉樹が用いられ、穴蔵には大径のアスナロ（ヒバ）が多用されるようになり、土蔵の基礎部分には、アカマツ、クリ、スギ、ツガ属や、様々な転用材が用いられていた。これは木材生産・流通網の整備による、用途に応じた用材選択の確立と、転用材を用いた経費削減を反映していた。18世紀後葉以降になると、江戸近郊の植林材の生産・流通の拡大を反映し、下水木樋・枝樋、穴蔵、土蔵にはヒノキ科の針葉樹の減少と、アカマツ、スギ、カラマツ属の利用の拡大が認められた。こうした変遷の背景には、都市人口の増加と、明暦の大火（1657年）をはじめとする火災の影響が推定された。

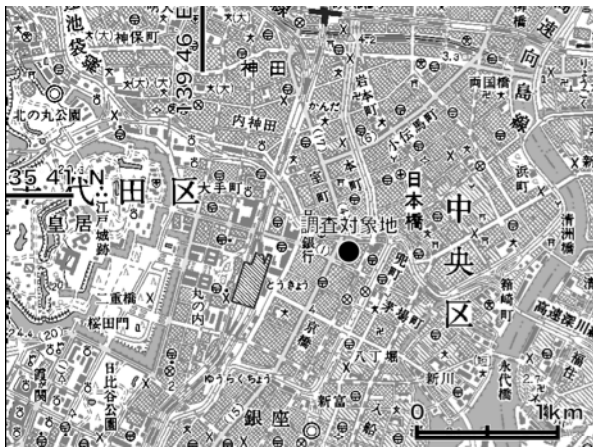


図3. 中央区日本橋一丁目遺跡の位置

表. 中央区日本橋一丁目遺跡における土木・建築材の用材変遷

遺構種別	年代 樹種 / 生活面	17c						18c					19-20c			-1923							
		-1657	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	1上							
下水木樋 ・枝樋	カラマツ属							2	7														
	アカマツ・複維管東亜属	2	(2)	9			1		31	54	(2)	32	(1)	16	41	(6)	6	9					
	マツ属半維管東亜属											1											
	モミ属	1	(4)	9	(3)				8	(2)	14	6											
	トウヒ属			1					2														
	ツガ属			6	(1)		1		4	3		1	(1)										
	トガサワラ	1		1	(1)																		
	スギ	4	(4)	8	(2)	2	(1)		2	16		4	10		2	(1)	2						
	ヒノキ	2	(3)	6	(1)	1			4	7	(1)												
	サワラ	20	(4)	7																			
	ネズコ								1														
	アスナロ (ヒバ)									6	(1)	(1)	2		(2)								
	カヤ			1																			
	グマシデ属	(1)																					
	イヌシデ属	(1)																					
	アカガシ亜属	(3)	1																				
	クリ	(1)			(2)				1														
	ツブラジイ	(1)			(1)																		
	シキミ	(1)	(1)						1														
	クロモジ属	(1)																					
	クスノキ科	(2)																					
	サカキ	(3)																					
	ヒサカキ	(1)																					
	ウツギ属	(1)																					
	サクラ属									1													
	エゴノキ属	(1)																					
	シオジ属									1													
土蔵跡	カラマツ属											1		2									
	クロマツ											1					3						
	アカマツ・複維管東亜属							29		(14)	25	27	(1)	79	(7)	8	68	37	(7)				
	マツ属半維管東亜属													(1)									
	モミ属							8			1	3	2		3		3						
	トウヒ属												1										
	ツガ属							10			11	10	34	(3)									
	スギ							12			10	1	(14)	20	(2)		(9)						
	ヒノキ							1			1		1	(1)									
	サワラ							2			3												
	ネズコ																	(1)					
	アスナロ (ヒバ)							3			2		(7)	23	(4)								
	オニグルミ																	1					
	イヌシデ属							1															
	クリ							74			98	27	59	(2)	35		25						
	ゲヤキ												1										
	ハリギリ												2		1								
シオジ属												1											
穴蔵	カラマツ属									7	(3)	4		4	(3)	31	(12)	1	(7)				
	アカマツ・複維管東亜属			(2)	4									(3)			(15)		(28)				
	マツ属半維管東亜属					1																	
	モミ属	18	(8)		10	(4)	6	(2)	1	4			1	(1)									
	トウヒ属	(2)																					
	ツガ属	4	(8)			6		2	2			2	(1)	(3)									
	トガサワラ							1															
	スギ	1	(1)	(3)	3	(4)	(3)	(1)							(18)		29	(25)	7	(1)			
	コウヤマキ							4	(3)														
	ヒノキ				3	(2)	(3)		15		3	(1)							(9)				
	サワラ				1								1		(3)			(1)					
	アスナロ (ヒバ)			(1)			19	(4)	3	(4)	47	(4)	28	(2)	18	(3)	7	(5)	1	(6)	11	(2)	(1)
	マキ属			(1)																			
	カヤ												24	(4)	(4)								
	コササギ属																		(1)				
	アカガシ亜属														(1)				(2)				
	クリ						2		(4)				(1)			(1)							
	ツブラジイ	4			1				(1)														
	ムクノキ																		(1)				
	ゲヤキ												1		6								
クスノキ科						1																	
カツラ															2								
ナツツバキ属															2								
ヒサカキ						1																	
井戸	スギ	2		2								2					2						
	ヒノキ			1																			
	サワラ	2		(1)								1											

括弧内は本例に付属する杭や釘隠し、柱、補修材、裏込めなどの構築材(外敷)。生活面が複数にわたる遺構は、上位の面を含めた。

引用文献

- 大山幹成・鈴木伸哉・八木千紘・鈴木三男. 2008. 東京都千代田区弥勒寺跡出土の木棺材より構築した年輪幅クロノロジー. 日本文化財科学会第25回大会.
- 越村 篤. 2003. 近世木製品の分類・計測. 「東京都新宿区行元寺跡（仮称）藤和神楽坂五丁目プロジェクト計画用地に係る埋蔵文化財発掘調査報告書」, 309-325. 新宿歴史博物館.
- 鈴木伸哉・能城修一. 2004. 東京都中央区八丁堀三丁目遺跡より出土した江戸時代の木棺の形態と樹種. 植生史研究 12: 75-86.
- 鈴木伸哉・能城修一. 2006. 東京都新宿区崇源寺・正見寺跡から出土した江戸時代の木棺の形態と樹種. 植生史研究 14: 61-72.
- 鈴木伸哉・能城修一. 2008a. 法光寺跡 3 次出土木製品の樹種. 「法光寺跡 III」(岡三リビング株式会社編), 81-87. 株式会社アドミラルコーポレーション.
- 鈴木伸哉・能城修一. 2008b. 東京都中央区日本橋一丁目遺跡出土木材からみた江戸の町屋における土木・建築用材の変遷とその背景. 植生史研究 16: 57-72.
- 鈴木伸哉・能城修一. 2009. 木棺材の樹種同定. 「東京都文京区護国寺門前町遺跡」, 117-122. テイクイトレード株式会社埋蔵文化財事業部.
- 所 三男. 1980. 近世林業史の研究. 858+16pp. 吉川弘文館.
- 原 祐一. 1992. 細工町遺跡の木製品分類(兼凡例). 「細工町遺跡 別冊 2」, 1-21. 新宿区厚生部遺跡調査会.
- 星野安治・大山幹成・米延仁志. 2009. 年輪年代学的手法による産地推定の可能性-現生木の地域間比較-. 日本文化財科学会第26回大会.
- 星野安治・米延仁志・安江 恒・野堀嘉裕・光谷拓実. 2006. 東日本におけるブナ年輪幅暦年変動パターンの広域ネットワーク構築. 考古学と自然科学 54: 69-79.
- 松葉礼子. 1999. 溜池遺跡・汐留遺跡・墨田区三遺跡から出土した木製品の樹種から類推される近世江戸城周辺の木材消費. 植生史研究 7: 59-70.
- 山田昌久. 1993. 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成-用材から見た人間・植物関係史. 植生史研究特別第1号: 1-242.